



# 滝山 歴史マップ

滝山地区の史跡名所の散歩道

滝山地区町内会 連合会

〒990-2421 山形市上楳田一丁目17番26号(滝山公民館内)  
TEL (023) 622-3401 FAX (023) 635-0967



山形市を見下ろすように、瀧山(1,363m)が聳えている。瀧山は「霊山」とも呼ばれ祖霊・水神の信仰の山である。山麓には当時の隆盛を偲ばれる寺社や史跡が多い。平安期の歌人「西行」が訪れて詠んだとされる大山桜が、西蔵王一帯に咲く景観は美しい。



5 萬松寺 (平清水) B-3  
大宝3年(703)阿古耶姫草創の古刹である。承和2年(835)慈覚大師が観音像を刻み安置、麓上地方の仏法の道場であった。正平年間(1346~69)奥州黒石の正法寺長淨和尚が曹洞宗に改宗して復興開山した。



11 熊野神社 (上楳田) F-4  
本尊は「熊野大権現」で創建は不詳、明治4年(1871)再建している。平成15年区画整理で現在地へ移った。室内には朽ち果てた地藏尊、蔵王大権現、馬頭観音、聖観音が安置されている。



17 山神神社 (八森) D-2  
昭和34(1959)年瀧山寺の歴史を物語る二枚の祈禱札が発見された社である。この祈禱札は、寛正4年(1463)と寛政3年(1792)に瀧山寺が奉納したもので、この歴史を伝える貴重なものとして保存されている。



23 羽龍沼 (瀧山) H-1  
慈覚大師が雨乞い祈禱のとき、湖から龍が昇天し雨を降らせた伝説が残る。萬松寺和尚が雨乞い祈禱し農民を救った徳を称え、安永7年(1778)建立した請雨塔がある。



西蔵王展望台からの夜景



6 千歳山稻荷神社 (南原) B-3  
正しくは「正一位岩五郎稻荷大明神」。水商売繁盛の神として知られ、芸者達が犬勢参拜に來た。千歳山の奥地に創建したものを、延文元年(1356)千歳山の八合目に再建したと言われる。社殿は享保9年(1724)現在地に建てられた。



12 瀧山神社・瀧山寺 (中楳田) F-4  
瀧山寺は、正嘉2年(1258)瀧山開山で迫られた僧侶達が、中楳田の桜神前に小堂を建て瀧山大権現を祀ったのが始まり。寛政2年(1790)現在地に再建した。瀧山に関する古文書が瀧山保存されている。



18 清水観音堂 (八森) D-1  
源頼義が前九年の役で、永承6年(1051)に京都の清水観音に勝利を祈願し、「十一面千手観音菩薩像」を受け奥州に下り戦勝した。凱旋のときこの地に観音像を祀ったと伝えられている。



24 三百坊鳥居・瀧山塔 (土坂) G-1  
赤石の鳥居は、籠の信者達が瀧山信仰の再興を願い慶応2年(1866)建立した。瀧山塔は、安政2年(1855)三百坊鳥居から堂庭まで参道の両側に杉並木を奉納したときの記念碑である。



29 胎内くぐり (瀧山) G-1  
胎内とは母親の腹の中を表している。岩穴は大人がやっと潜れるほどで、中間でカーブし長さ5~6メートルである。胎内くぐりは豊地に見られ、大仏の胎内くぐりと同じ意味を持つ。以前は潜り抜けられたが、今は落ち葉や土で埋まり潜れそうもない。



34 三桜田堰 (岩波) D-2  
この堰が、上・中・下楳田の3村で約70町歩の田畑を潤していた。田畑に引く水は命掛けで農民は守った。そのため水争いが絶えなかったと云われている。この堰も大変な「水争い」を経験している。



7 耕龍寺・平清水観音堂 (平清水) C-3  
康平5年(1062)源頼義が京都の清水観音に戦勝を祈願「十一面千手観音」を勧請し奥州に下り安倍一族に勝利した。凱旋のとき瀧山に観音像を祀ったと伝えられる。元禄11年(1698)新山から平清水に移した。最上第6番札所の霊場である。



13 耕源寺・五百羅漢 (上楳田) E-3  
天台宗の荒廃した古寺を耕龍寺八世が曹洞宗に改宗し開山した。開基は文亀3年(1503)と言われる。この寺は、何度も火災に遭いつつ、本堂は明治12年(1879)再建された。位牌堂の五百羅漢は圧巻である。



19 阿弥陀清水 (土坂) E-2  
瀧山詣での信者達はこの清水で喉を潤し、一息ついたことだろう。泉の形は変わったが、湧き出る清水は昔のまま絶えることがない。泉の側には石碑が多く建っている。三基の歌碑がある。誰が建てたか不祥の文字碑である。



25 慈覚大師御堂 (瀧山) F-1  
土地の人は「大師堂」とか「護摩堂」といい、お堂には「大師の石像」が祀られている。昔、ここには荘厳な「霊山寺」が建ち、瀧山修験の一大道場であったと伝えられる。堂の前は「菩薩」といい、大きな池があった。



30 平泉寺しだれ桜 (平清水) C-3  
平泉寺境内に、樹齢約350年以上の見事な2本の「しだれ桜」が咲きほこる。昭和47年(1972)山形市の天然記念物に指定された。桜の季節は県内外の人々が賑わう。



35 陶相小野藤治平碑 (平泉寺) C-3  
小野藤治平は文化年間(1804~17)平泉寺寮に招かれ相馬焼の製法を指導し平清水焼の基礎を築いた人物で、平清水焼の陶祖と云われている。この碑は、明治28年(1895)平清水の窯業者たちが建立した。



8 平清水家・ひいらぎ (平清水) C-3  
平清水家は、奈良時代に下野の国(栃木県)から一族と共に移住して来た。核は移住のとき持って来て鬼門に植えたといわれ、約千二百年以上の樹齢と言われる。昭和28年(1953)県の天然記念物に指定された。



14 石行寺の紅葉 (岩波) D-2  
石行寺山門は、宝暦10年(1760)頃の建立で格式の高い建造物である。その前に樹齢350年と云われる紅葉がある。京都から持ってきた「高尾」と云う品種で、色鮮やかでテレビで放映されるなど大勢の行楽客で賑わう。



20 土坂観音堂 (土坂) E-1  
坂道を登ると土坂観音堂があり、本尊は十一面観音である。境内には宝篋印塔が安置され、石行寺住職が導師となって建てられたものである。近くに文化7年(1810)に建てられた瀧山塔がある。



26 前滝・瀧山川源流 (瀧山) F-1  
慈覚大師堂から少し登ると、豊かに湧き出る泉がある。入り水と云いこの水を大師堂の池に引き入れていた。前瀧は落差六メートル瀧山川の源流である。この川の水は伏流水となり遠く下流から流れている。



31 石行寺大般若経 (岩波) D-2  
「大般若波羅密多經」写経百十四巻が、昭和30年(1955)県の文化財に指定された。写経は、文和2年(1353)から書き始め、実に23年の長い歳月を掛け、しかも南北朝時代の動乱の中で書き継がれた。(非公開)



平清水焼「緑袖獅子鈕大香炉」  
小野藤治平作(平泉寺所蔵)  
数少ない小野藤治平作の大香炉である。香炉の取手には相馬藩主中村家の「九星」の家紋が施され、平清水に來たとき持ち込んだものと伝えられている。



平清水焼「緑袖香炉」  
安倍覚左衛門 作(平泉寺所蔵)  
この香炉は、平泉寺が所蔵する数少ない覚左衛門遺作の一つである。石粉と土を混合し焼成した磁器に近い「磁器」と言われている。



岩波焼「磁器染付千歳山遊ノ図」  
伊藤藤十郎 作(伊藤家所蔵)  
千歳山は山形市街から近く、民衆の物見遊山の地であった。江戸末期に岩波の陶工伊藤藤十郎が、弓町の盛り場で器量が良く基達者のお福さんという女性が、千歳山で料客の相手をしている図を血に絵描している。

(上記陶器3点はいずれも非公開)



1 御立鳥居 (鳥居ヶ丘) D-6  
瀧山信仰の象徴である「御立の鳥居」は、通称「元木の鳥居」と呼ばれてきた日本最古の石鳥居である。天延の頃(973~76)瀧山大権現へ奉納されたものと言われ、昭和27年(1952)国の重要文化財に指定された。



3 新山神社 (青田) E-6  
慈覚大師が瀧山を開山するとき新山大権現の尊像を刻み開山成就を祈願した。その後西行が瀧山に籠もられたとき、新山大権現が靈夢に現れ、お告げにより村民が小堂を建立したと伝えられる。



9 平泉寺・大日堂 (平清水) C-3  
大日堂は、平清水の奥地に天平9年(737)行基の草創である。仁寿2年(852)慈覚大師が現在地に再建、別当寺平泉寺を開山した。鎌倉時代は東北の祈願所、最上家時代は、代々寺領を賜る天台宗の古刹である。



15 石行寺・岩波観音堂 (岩波) D-2  
和銅元年(708)行基が観音像を刻み開山。貞観2年(860)慈覚大師が再建した天台宗の古刹である。南北朝時代の「大般若波羅密多經」の写経と観音像いずれも県の文化財に指定されている。



21 三本木沼 (神尾) H-3  
昔から市民の行楽の地として親しまれている。沼は中楳田と下楳田の用水として、元禄8年(1695)山形藩主松平下総守によって築かれた溜池。沼の東側に出来たという。昔は天井から落ちる水溜を眼病の目薬や腹の薬にしたとぞうである。



27 穴小屋 (瀧山) G-1  
自然の造形とは言い両側の岩に、大きな岩が覆いかぶさり、まるで小屋のような不思議な形で二百万年前の蔵王山系の噴火で出来たという。昔は天井から落ちる水溜を眼病の目薬や腹の薬にしたとぞうである。



32 四国八十八ヶ所石仏 (平泉寺) C-2  
大日堂裏山に市内では珍しい四国八十八観音がある。石像の下に名鑑簿の土を納めたという。文政十年(1827)紀州木元浦、若之助のほか三人が願主となり、施主を募り建立した。巡礼路は山を一巡する道とっており、自然の中の散策にお薦めのコースである。



2 白山神社 (元木) E-7  
元木の九郎右エ門が北麓を放し、加賀の白山本宮に詣で御神靈を勧請し、村民の賛意を得て10年後の元文3年(1738)開眼供養した。昭和4年(1929)本殿、拝殿、幣殿を建立、「指定村社」に昇格した。



4 熊野神社 (南原) C-4  
神社の縁起書は、天平元年(729)に建立と伝えられ、前田村の古文書には、延文元年(1356)斯波兼頼が建立、最上義光再興とある。天保12年(1841)現在の社殿を再建。昭和19年(1944)「指定神社」に指定された。



10 中嶋稲荷神社 (小立) D-3  
創建は、享保の頃(1716~35)とされ、貞享5年(1852)再建、平成8年改築した。その昔、瀧山川が氾濫、村の殆どが流された時、境内には中島になり流されず集まった村民が救われたと伝えられる。



16 古峯神社 (横根) E-2  
別当神保家の当主静穴は、古峯神社の信仰が厚く、天保13年(1842)金剛山古峯神社から「分神靈」を勧請し、神社を建立した。旧正月の祭礼は、笹竹で作った火除のお守りが名物で大勢の参詣者で賑わう。



22 姥神 (瀧山) F-1  
「うばさま」とも呼ばれている。昔この瀧山は天台宗の聖地で多くの僧が修行していたが、女人は修行の妨げになるとの理由から、ここから先への入山が禁じられた。そこで女人は、この姥神に祈願の仲介をお願いして下山したという。



28 大滝 (瀧山) H-1  
滝の高さは二十メートル以上もあろうか、落下する水煙を見るのは春の雪解け時である。滝の中頃の岩上に不動明王が祀られており、深山幽谷の神秘さと大自然の美しさと相俟って入山者の心が洗われる心地である。



33 平泉寺大仏頭と仁王像 (平泉寺) C-2  
大日堂に高さ1.92メートルの釈迦如来の仏頭が安置されている。昔、現在の千歳山公園に大仏があったが焼失し、再興を図ったが財力が集まらず断絶だけになった。仁王像2体は行基の作と云われ、昔は王門があったが、今は堂内に安置されている。